

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人総合研究大学院大学

1 全体評価

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関法人等に設置されている各分野で我が国を代表する研究所その他の機関が有する優れた研究環境を活用した博士課程教育を実施し、高い専門性と広い視野並びに国際的通用性を兼備して、新しい課題を発掘して解決できる独創的な研究者を育成することを目指している。第3期中期目標期間においては、異分野融合的な新しい学術分野の創出を試みるとともに、各専攻が提供する専門教育を基本としつつ、総合教養教育及び専門基礎教育の整備やカスタムメイド教育プログラムの提供等により、新しい科学と文化を創造し、時代と社会の要請に応える研究を担うことのできる人材を育成すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、大学共同利用機関法人等と「連合体」設立に向けた検討を開始するとともに、大学院生の海外研究活動及びキャリア形成のための「SOKENDAI短期派遣・長期インターンシッププログラム」を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載19事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 「連合体」設立に向けた取組

科学技術・学術審議会学術分科会の審議まとめ（第4期中期目標期間における大学共同利用機関の在り方について）を受け、異分野融合の推進・新分野創成等による研究力の強化、大学院教育の充実及び運営の効率化を図ることを目的として、4つの大学共同利用機関法人及び総合研究大学院大学で構成する「連合体」の設立に向け検討を開始している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ SOKENDAI短期派遣・長期インターンシッププログラムの実施

“国際的に活躍できる研究者人材の育成”を目的として従来より実施してきた「海外学生派遣事業」と「インターンシップ事業」を統合し、大学院生が主体的に行う海外での短期の研究活動及び将来のキャリア形成につながる国内外での長期の研究活動を重点的に支援する「SOKENDAI短期派遣・長期インターンシッププログラム」を実施している。実施に当たって、委員会及び事業予算を一元化するとともに、事業経費を対前年度比約2倍に拡充した結果、平成30年度における学生参加率は、前年度の約3%から約12%へと増加している。